

**(仮称)うるま市総合アリーナを活用した
スポーツコンベンション実施計画(案)**

**令和5年4月
うるま市**

第1章 調査

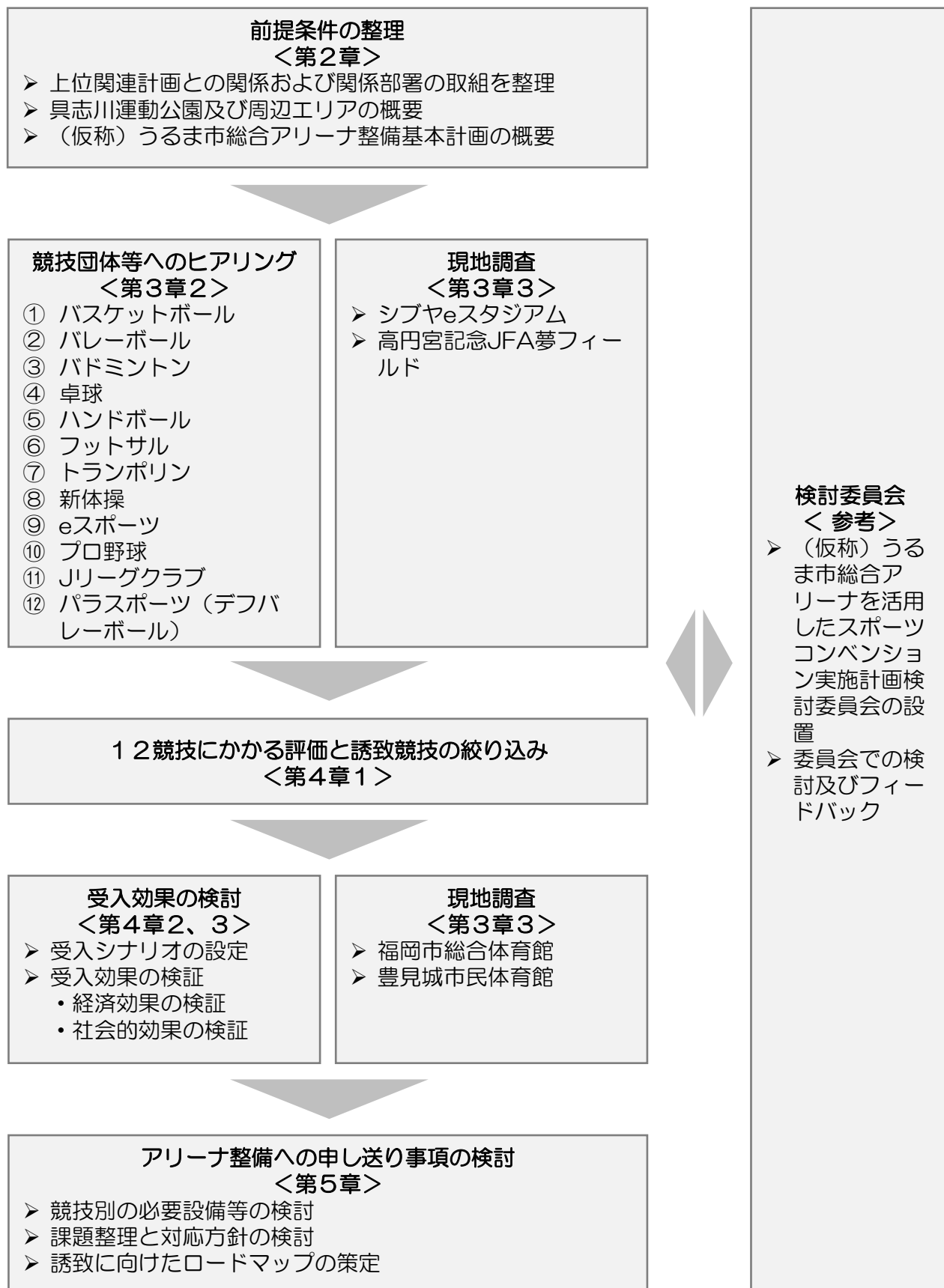
1. 本業務の目的

＜本業務の目的＞

うるま市は、（仮称）うるま市総合アリーナ（以下、アリーナ）の整備を計画しており、同施設にてスポーツキャンプ・合宿等の受け入れによる経済波及効果の創出、また、プロスポーツ選手と地域の子どもたちとのふれあいの場を設けることによる子どもたちのスポーツに取り組む意欲の向上を目指している。本業務では、同目的を達成するために必要となる施設・設備・備品等を整理し、スポーツキャンプ・合宿等の受け入れを推進する効果的かつ実現性のあるロードマップの作成が求められている。

2. 本業務の進め方

本業務は、以下のステップに従い、検討委員会の審議を経て実施計画を策定した。

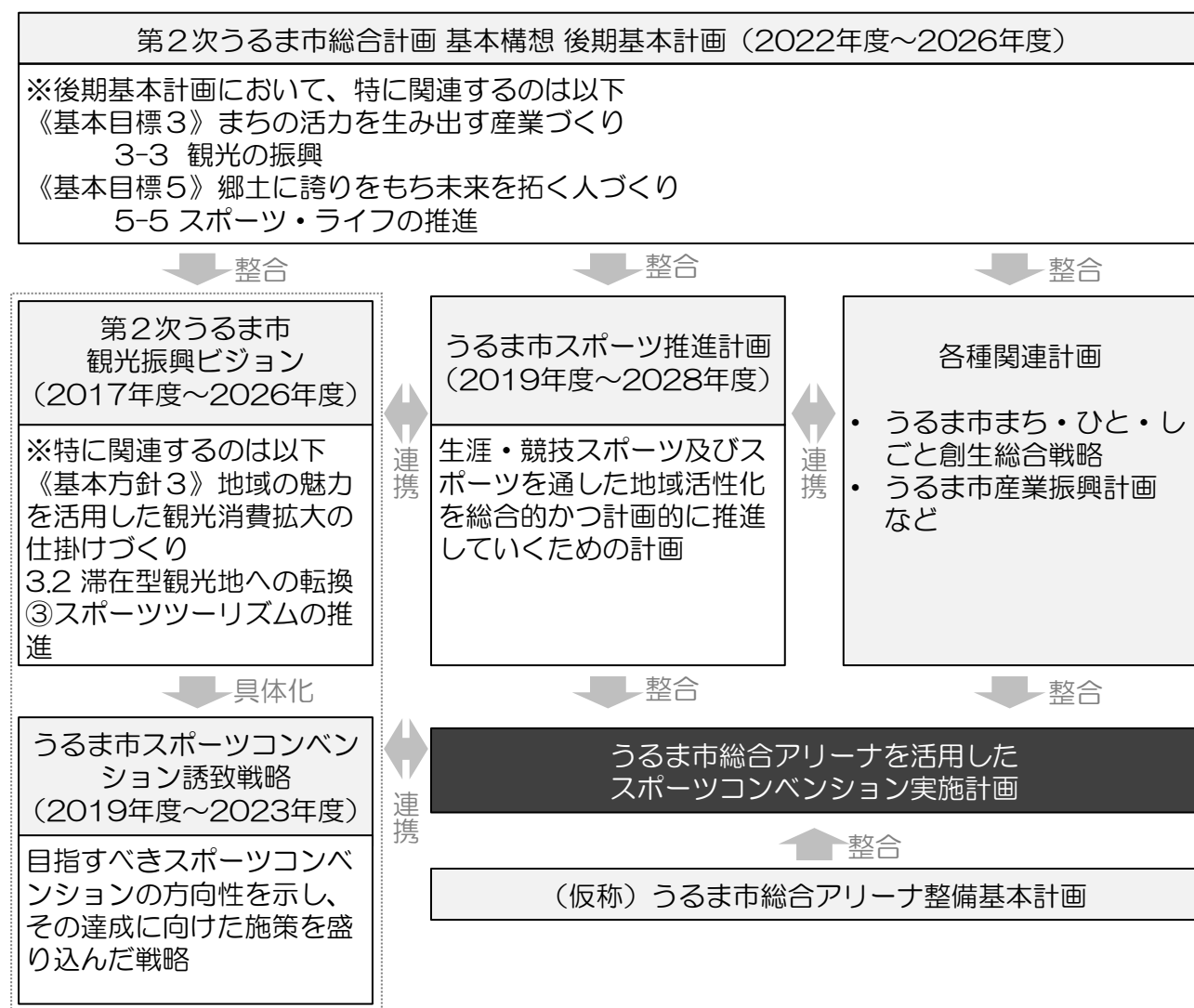


第2章 前提条件の整理

1. うるま市の概要

①うるま市の上位関連計画と本業務の関係

本業務（（仮称）うるま市総合アリーナを活用したスポーツコンベンション実施計画（以下、「本業務」という））は、「第2次うるま市総合計画（基本構想・後期基本計画）」、「第2次うるま市観光振興ビジョン」、「うるま市スポーツ推進計画」、「うるま市スポーツコンベンション誘致戦略」、「うるま市産業振興計画」などの各種関連計画と整合を図り策定した。



②関係部署の取り組み整理

経済産業部 観光振興課では「うるま市スポーツコンベンション誘致戦略（2019年度～2023年度）」を策定し、目指すべき目標である「スポーツコンベンション誘致を通じた地域活性化の実現」の達成に向けて取り組むべき5つの基本方針、及び取り組むべきことを以下の通り定めている。

うるま市スポーツコンベンション誘致戦略の目指すべき目標	
スポーツコンベンション誘致を通じた地域活性化の実現 ・ スポーツコンベンション誘致件数 2019～2023 年度で累計 65 件 ・ うるま市スポーツコンベンション誘致推進協議会（仮称）の設立	
誘致推進にあたっての基本方針	取り組むべきこと
基本方針① 受入体制の整備	①-1 うるま市スポーツコンベンション誘致推進協議会（仮称）の設立
	①-2 宿泊先の確保
	①-3 各種支援メニューの構築（交通アクセスの改善・支援や宿泊費の一部支援）
基本方針② 施設の改修・拡充	②-1 施設の軽微な改修
	②-2 具志川総合体育館等の整備ならびに石川体育館の機能強化
	②-3 中長期的な社会体育施設等の改修計画の策定
基本方針③ 受け入れに対応できる人材の育成	③-1 コーディネート人材の育成・確保
	③-2 スポーツボランティアの育成・確保
基本方針④ プロモーション活動の実施	④-1 県外におけるプロモーション活動の実施
	④-2 マーケットニーズ調査の継続的な実施
基本方針⑤ 合宿地・うるまの魅力の向上	⑤-1 旧与那城庁舎周辺の整備
	⑤-2 自転車ネットワークの整備
	⑤-3 スポーツツーリズムの推進
	⑤-4 市民との交流機会の創出

本事業と特に関連性が高いのは、基本方針①受入体制の整備（ソフト事業）、および基本方針②施設の改修・拡充（ハード事業）である。基本方針②施設の改修・拡充では、②-1 施設の軽微な改修、②-2 具志川総合体育館等の整備ならびに石川体育館の機能強化が定められており、当事業の他、以下業務が進行中・完了見込みである。（2023年2月時点）

<観光振興課における主な事業（ハード事業）>

- ・ 具志川野球場の機能強化計画作成 : 令和4年度策定中
- ・ 具志川野球場のブルペン整備・バックネット改修工事 : 令和5年度完了見込み
- ・ 与那城陸上競技場機能強化工事 : 令和6年度完了見込み

	令和2年度	令和3年度
バドミントン 北海道コンサドーレ札幌および三菱自動車京都からのご意見等	＜施設・設備について＞ ✓ インドアスポーツのトップチームを招聘するには施設設備に改善の余地ある ✓ 更衣室やシャワーについて一般の人とMIX しない同線の確保が必要 ✓ ウォーミングアップを行うための施設がほしい ✓ かなり老朽化が進んでおり床も少し滑っていた ✓ バドミントンに必要な備品関係が揃っていない ✓ 石川体育館は5段階評価の5であり、具志川総合体育館は床が危ないため5段階評価で1か2である ✓ 石川体育館に関しては、ワックスの塗り直しもあり、バドミントンコートのラインもあったため、とても練習に集中できる環境だった ✓ 具志川総合体育館に関しては、昨年提案したものの改善されておらず、ワックスの状態が悪く、グリップが効くところと効かないところがあるため、足がとられ、とても危険な状態だった(令和3年度はケガ人は出なかった) ＜受入対応及び周辺環境について＞ ✓ 体育施設の受け入れ対応自体は良かったが、競技に関する知識がなかったこともあり、最初の段階では十分な受け入れ態勢が整っていなかった→受け入れるチーム・団体の競技に関する知識が必要ではあるが、基本的には、事前に受け入れにあたって必要な設備等の確認を十分に行うことで改善できると考えられる ✓ 団体側は「レンタカーがあれば問題ない」とする一方、選手側からは「ホテルから体育館の距離をもう少し近くにして欲しい（歩ける距離）」との要望があった ✓ 宿泊施設自体の古さはあったものの、スタッフの対応が素晴らしかった ✓ 食事についても満場一致で満足だった ✓ 宿舍からの距離や時間を考えると、具志川総合体育館の方が近いいため、改善できれば利便性が高まる。 ✓ 受入対応は普通であり、沖縄入りした時の行動・受渡が不明確だった ✓ 交通アクセスも普通であり、曜日によって道路事情が変化するため、時間設定が難しい ✓ 練習施設からホテルまでの距離が遠いほど、スケジュール通りの合宿が難しくなる ＜合宿を行う理由＞ ✓ 北海道が本拠地のチームでもあり、2月、3月の時期に、温かい沖縄で合宿ができること自体が魅力である ✓ 周辺環境としては誘惑が少ないため、合宿には適している ＜その他＞ ✓ 羽衣国際大学バドミントン部への誘致活動において、「チームとして興味があるチームはあったものの、コロナ禍により学校側の許可がおりなかったため誘致までは至らなかった。しかし、沖縄での合宿に興味があるアマチュアチームがあることがわかった」	

＜本業務との関係＞

前頁の通り、毎年、誘致活動を実施していく中で、さまざまなニーズや課題等は把握しており、市内スポーツ団体や経済団体の中でも共有されている。一方で、「うるま市スポーツコンベンション誘致戦略（2019年度～2023年度）」は2023年度（令和5年度）で終期を迎えるため、次期戦略を新たに策定し、取り組みを一層加速化させていく必要がある。

そのため、本業務では、新たな施設（総合アリーナ）をベースにしたニーズを広く検証し、これまでの観光振興課における実績ベースの情報と結合させることで、効果的かつ実現性のある次期戦略の策定を可能にすることを目標とする。

本業務は、誘致戦略の基本方針①②に従い、各種調査及び検討の結果について整理を行う。

＜基本方針①＞受入体制の整備

- ・ ＜①-1＞スポーツコンベンション誘致推進協議会（仮称）等の設立を踏まえた仕組みづくりに関して、各競技において求められるソフト面の要求を反映させる
- ・ ＜①-2＞各競技が宿泊施設に求められる要件を明らかにし、宿泊施設の確保に向けた情報整理を実施する
- ・ ＜①-3＞観光振興課の「めんそーれうるま！キャンプ・合宿事業」、「うるま市スポーツコンベンション推進事業」等において想定されている各種補助金の前提を理解し、これを活用した誘致のシナリオを設計する

＜基本方針②＞施設の改修・拡充

- ・ ＜②-2＞受入計画案に準拠し、受入に必要となる施設・設備・備品等の抽出を行い、うるま市総合アリーナ（仮称）基本設計への申し送り事項として整理する

③外部環境の整理

＜沖縄県における国民スポーツ大会の誘致＞

2022年12月、沖縄県のスポーツ協会は、2034年の第88回国民スポーツ大会の誘致に向けた要望書を沖縄県庁に提出した。沖縄県としては、誘致に向けて手続を進める方針であり、2023年度に開催要望書を日本スポーツ協会及び文部科学省に提出し、内々定を得る予定である。その後、2027年に内定ができれば、2031年に正式決定することとなる。

国民スポーツ大会は、観光客の増加や交通・宿泊・飲食などの消費が増えることによる「経済効果」、競技場や選手村、交通網、宿泊施設などの整備が進むことによる「地域インフラの整備」、全国から集まる選手や関係者と地域の人々との交流の場がうまれることによる「交流の促進」が主な効果であると考えられる。

また、県や市の独自の取り組みとして、地域住民や若者のスポーツへの関心や参加意欲を高める取り組みを実施することで、地域のスポーツ文化の活性化を図ることが可能となる。

- ・スポーツに親しむ機会の提供

→例えば、本大会開催前に、各地域でジュニアも参加できる大会やフェスティバルを開催したり、アスリートやパラアスリートとの交流イベントを開催することが挙げられる

- ・スポーツ交流

→例えば、開催直前に、他県のチームの合宿を受け入れたり、県内チームとの合同合宿を実施することが挙げられる

- ・スポーツを通じた地域の魅力向上・発信

→例えば、スポーツに関連した地域の魅力を深掘したり、県内・県出身のアスリートを取材しスポーツに対する想いやアスリートの素顔を発信したりすることが挙げられる

- ・スポーツ人材の育成

→例えば、「する」「育てる」「観る」「支える」に様々な側面でスポーツへの関わりをもつ人を育て、スポーツのチカラを活かした人づくりを実施することが挙げられる

うるま市として上記の取り組みに積極的に参画していくことで、国民スポーツ大会からもたらさせる効果を最大限享受できるよう検討を進めていくことが肝要であり、また、本業務においては、国民スポーツ大会への関係を意識して進めることが求められている。

2. 具志川運動公園及び周辺エリアの概要

①具志川運動公園における現有施設の概況

具志川運動公園は、うるま市のほぼ中心、沖縄北インターチェンジから東に約5kmに位置する、総面積 211,000 m²の都市公園である。公園内には、具志川総合体育館、具志川総合グラウンドのほか、テニスコートや野球場、ドーム（屋内運動場）など、スポーツ施設が集積している。

公園名	具志川運動公園		
総面積	211,000m ²	公園種別	運動公園
主な施設	①具志川総合体育館 ②具志川総合グラウンド ③具志川庭球場 ④具志川野球場 ⑤具志川ドーム ⑥具志川多種目球技場 ⑦サブグラウンド ⑧スケートボード場 ⑨ゲートボール場		

具志川総合体育館の概要は、以下の通りである。

所在地	うるま市字大田427番地		運営	指定管理者	
建築年月	1981 年1月		建物構造	鉄筋コンクリート造 地上2階	
開館時間	8：30～22：00		休館日	火曜日（祝日の場合翌日） 年末年始（12/29-1/3	
建蔽率	60%		容積率	200%	
延床面積	5,469,967 m ²		建築面積	2,868 m ²	
階	主な諸室	概要	階	主な諸室	概要
1 F	アリーナ	競技面積:35m×45.5m、 天上高:15.9m、バレー ボール3面、バスケット ボール2面、バドミント ン8面、卓球5台、空手 3面、体操競技	2 F	観客席	1,168 席（固定）
	倉庫	アリーナ内に4室		ランニング コース	205m
	放送室	1 室		柔剣道場	空手1面、柔道1面、 剣 道 1 面
	医務室	1 室（倉庫として使用）		卓球室	5 台
	シャワー ルーム	男子8基、女子8基		トレーニン グルーム	ー
	更衣室	2室（男女各1室）		会議室	1 室
	トイレ	浄化槽		トイレ	浄化槽
-	駐車場	195台（具志川総合グラウンドと兼用）			

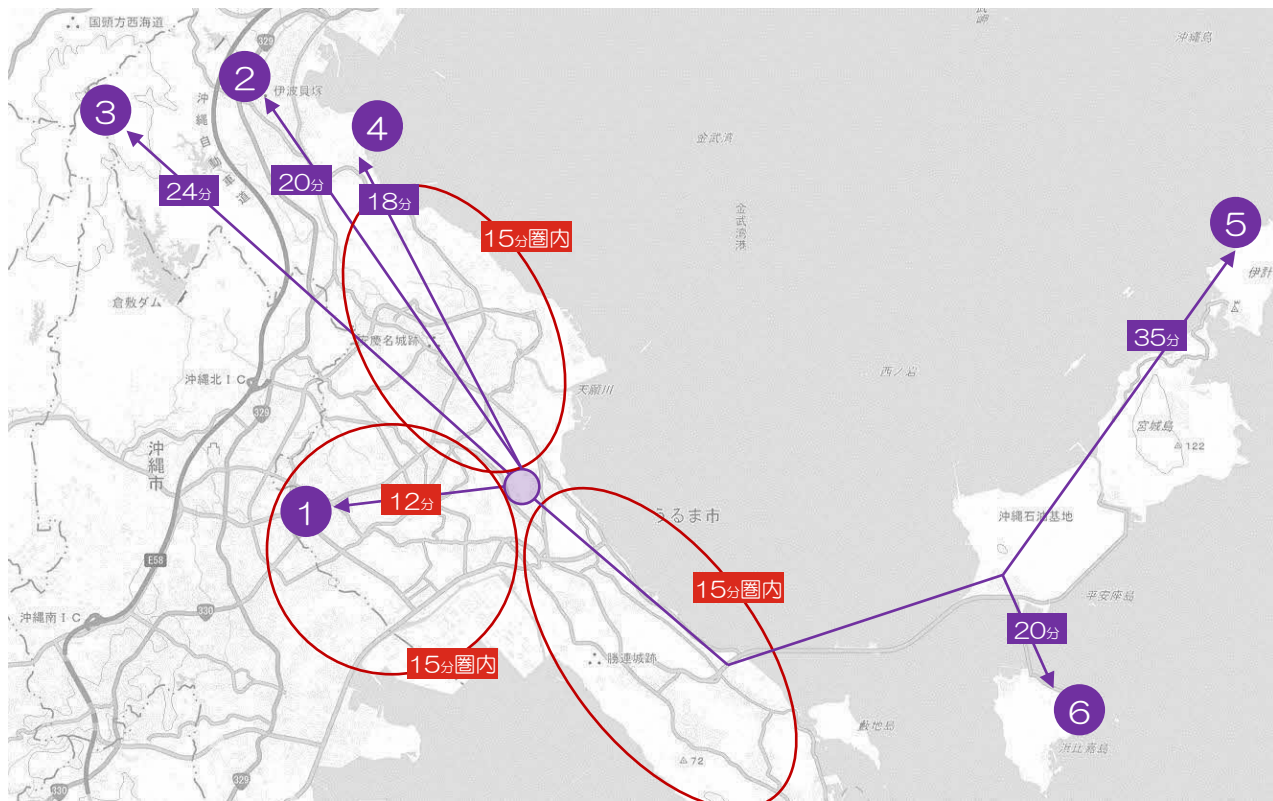
②具志川運動公園近隣の周辺施設の概況

具志川運動公園は県道8号線と県道10号線に挟まれた場所に位置し、周辺には県営団地や中学校、公民館等が立地している。



出所：「平成27年度全国道路・街路交通情勢調査 一般交通量調査結果（可視化ツール）」を基に作成

具志川運動公園周辺における、市内宿泊施設（収容人数100名以上）は5軒所在する（トランボリンの合宿等で実績を有する「ホテル浜比嘉島リゾート」（収容人数80名）を含めると6軒である）。一方、合宿・大会関係者にとり利便性が高いと考えられる「車15分圏内」の範囲に焦点を絞ると、本市赤道の「春日観光ホテル」の1軒のみ該当する。



出所：「平成27年度全国道路・街路交通情勢調査 一般交通量調査結果（可視化ツール）」を基に作成（所要時間：Google Map調べ）

エリア	番号	施設名	住所	所要時間	収容人数
具志川	1	春日観光ホテル	うるま市赤道179-1	12分	100
石川	2	ココガーデンリゾート オキナワ	うるま市石川伊波501	20分	268
	3	アンサ沖縄リゾート	うるま市石川山城 1468	24分	256
	4	HIDEOUT OKINAWA URUMA	うるま市石川東恩納 1710-1	18分	154
与勝	5	AJリゾートアイランド 伊計島	うるま市与那城伊計 1286	35分	364
	6	ホテル浜比嘉島リゾート	うるま市勝連比嘉202	20分	80人

3. （仮称）うるま市総合アリーナ整備基本計画の概要

①基本コンセプト

「（仮称）うるま市総合アリーナ整備基本計画」では、「うるま市スポーツ推進計画」において、“スポーツを通じた健康増進と地域活性化の実現”を基本理念として掲げていることを踏まえ、新アリーナを市民の健康増進と地域活性化に寄与するスポーツ拠点とすることを目指している。また、平日は健康づくりや交流の場として多くの市民が利用し、週末は各種スポーツやスポーツ以外のイベントで市内外の人々が集まり、にぎわいを創出する場となる施設を目指している。さらに、平常時はスポーツやイベントを通じたにぎわい創出の拠点として、そして災害発生時には人々の安心・安全を守る防災拠点としての役割が期待されることから、以下の基本コンセプト及び整備方針を定めている。

基本コンセプト

「うるまの“元気”を生み、“もしも”を守る拠点 （仮称）うるま市総合アリーナ」
整備方針

- ◆ 多様なスポーツへの関わりを通じて、心身ともに健康になる施設
 - ◆ 様々な災害に対応した、人々の安心・安全を守る施設
 - ◆ 交流を促進し、地域の活性化につながる施設

②導入施設・施設規模

「（仮称）うるま市総合アリーナ整備基本計画」では、ニーズ調査・ヒアリング調査などを通して、本施設に導入すべき主な施設を下表のとおり整理し、施設の用途や目的から施設規模を検討している。

導入施設		用途・目的	施設規模（仮）
アリーナ	メインアリーナ	・ 日常の市民スポーツ利用 ・ 各種屋内スポーツ大会（市大会、地区大会、県大会）のメイン会場 ・ 大規模イベント利用（MICE・eスポーツイベント等） ・ スポーツチームの練習会場・試合会場	・ 面積：2,600 ㎡（65m×40m） ・ 天井高：12.5m 以上 ・ バスケットボール3 面 ※ミニバスケットボール含む ・ バレーボール4 面 ※6 人制および9人制（女子および家庭婦人）
	観客席・ランニングコース	・ 大会・イベント開催時の観覧席 ・ 市民・大会参加者等のランニング・ウォーミングアップ利用	・ 席数：固定席 2,000 席 ※車いす席 12 席、同伴者席 12 席程度 ・ ランニングコースの幅：避難収容人数に考慮し、3m 程度
	サブアリーナ	・ プロスポーツチームやパラスポーツ等の合宿 ・ 日常の市民スポーツ利用（大会等開催時の市民利用の場の確保） ・ 大会開催時のサブ会場 ・ 中小規模イベント利用	・ 面積：1,064 ㎡（38m×28m） ・ 天井高：12.5m 以上 ・ バスケットボール 1 面 ・ バレーボール2 面 ※6 人制および9人制（女子および家庭婦人）

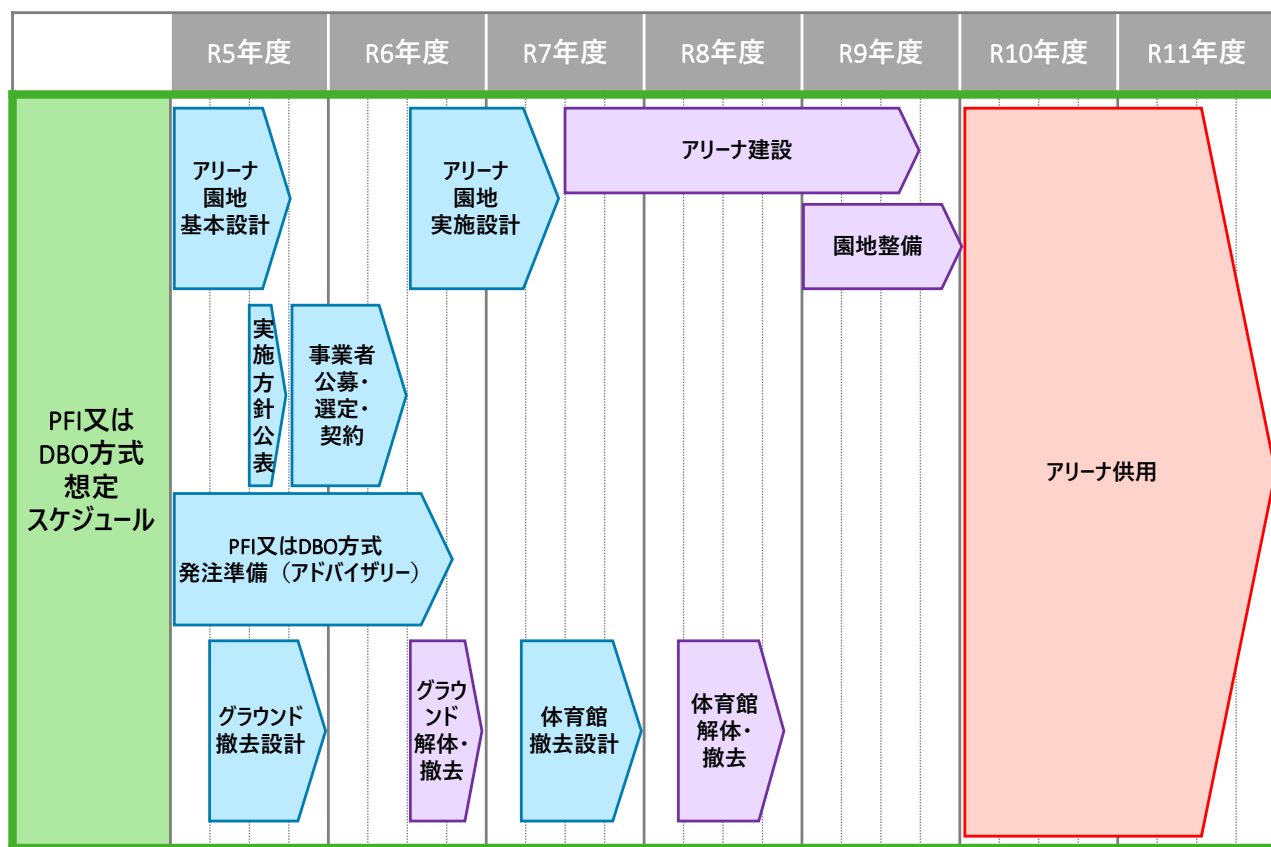
導入施設		用途・目的	施設規模（仮）
アリーナ	放送室・映像処理室	- 放送席・放送機材の設置 - 動作解析用のカメラ操作機器の設置	面積：30 m²程度
	審判員控室	- 大会開催時の審判員の待機室 - 小会議室としての利用も可能	面積：40 m²程度
	中会議室（運営会議室）	大会開催時の役員室	面積：80 m²程度
	更衣室	- アリーナ利用者の更衣室（シャワー・ロッカーを含む） - 多目的更衣室（シャワー・ロッカーを含む）	- 一般更衣室4室、多目的更衣室1室 - 面積：メインアリーナの一般更衣室（シャワー含む）は計160 m²、サブアリーナの一般更衣室（更衣室のみ）は計80 m²程度、多目的更衣室は20 m²程度
	器具庫	メインアリーナ・サブアリーナで使用する器具を収納	面積：メインアリーナ用500 m²程度、サブアリーナ用100 m²程度
プール	メインプール	- 日常の市民利用 - 学校の水泳授業利用 - スポーツチームの水中トレーニング・アイシング等	25m×8 コース - 面積：メインプールの水面積は460 m²、プールサイドはメインプールと同程度の規模、460 m²とし、計920 m²程度
共用部	トレーニング室	- スポーツチーム合宿等でのトレーニング利用 - 日常の市民利用	面積：30 m²程度
	多目的室	- 武道場/卓球室/スタジオ利用 - 会議室（地域コミュニティ活動、大会・イベント時の控室、講習会等）	面積：最大500 m²
	多目的室・トレーニング室器具庫	多目的室やトレーニング室で使用する器具等を収納	面積：200 m²程度
	休憩スペース	- 利用者の休憩利用や交流スペース - プールの見学ラウンジ - 大会・イベント時の滞留空間	面積：1階200 m²程度、2階はプールの見学ラウンジとして利用
	医務室	- 施設利用者の救護 - 大会時等のドーピング検査の実施	面積：25 m²程度
	トイレ	一般トイレ・車椅子使用者やオストメイトの方に配慮した多機能トイレ	最大規模2,000人の大会開催時を想定して個数を設定
	キッズルーム	小さな子どもが安全に過ごせる空間の確保	面積：30 m²程度
	授乳室	乳幼児を連れた利用者への配慮	2箇所設置想定 - 面積：1箇所10 m²、計20 m²程度

※その他、プール（メインプール・幼児向けプール・更衣室など）、管理諸室（防災備蓄倉庫・その他管理施設）、外構（広場、駐車場・駐輪場）については、「（仮称）うるま市総合アリーナ整備基本計画」を参照。

③整備スケジュール

令和5年度に実施した民間活力導入可能性調査における定性面及び定量面からの事業手法の検討を踏まえ、施設の整備運営における民間事業者のノウハウの最大限の活用、市の財政負担の縮減や平準化、市職員の負担軽減といった効果が期待されるPFI（BTO）方式によりアリーナの整備運営を行うこととしている。

民間活力導入可能性調査において整理したPFI（BTO）方式によるアリーナ整備の想定スケジュールを以下に示している。これによると、令和6年度中に事業者選定・契約のうえ整備に着手し、令和10年度の供用開始が見込まれている。



第4章 誘致競技の評価と受入効果

1. 誘致競技にかかる評価結果

第3章の調査の結果を受け、「経済合理性」「市民の影響」等を総合的に勘案した各競技の評価は以下の通りである。

#	競技	ポジティブ要因	ネガティブ要因
1	バスケット	✓ 代表・実業団・大学・高校生以下等幅広いニーズがある ✓ 初期投資と収益性のバランスも良い ✓ 子ども達の部活動人数・人気が高い	✓ 代表以下すべてのカテゴリーで練習は原則占有、非公開になる可能性が高い ✓ 特に高校生以下の合宿・大会誘致は補助金が必須となる可能性がある
2	バレーボール	✓ 合宿よりも大会ニーズの方が高いことが見込まれる ✓ 初期投資と収益性のバランスが良い ✓ 競技としての人気が高い	✓ 代表チームの合宿に関しては監督の意向があるため、不確定要素が大きい ✓ 実業団の合宿に関しては企業との結びつきが影響するため企業と市の連携が重要となり、また、補助金が必要になる
3	バドミントン	✓ 代表・実業団・大学等幅広いニーズある ✓ S/Jチームやその他チームを誘致した交流戦の可能性あり、実業団のニーズ拡大余地ある	✓ 代表・実業団練習は原則非公開 ✓ 代表合宿はニーズがあるものの頻度が低い（5-6年に一度） ✓ 代表はビーチが隣接する宿泊施設が必要
4	卓球	✓ 県内大会の誘致は閑散期におけるニーズの掘り起こしとなる	✓ 県外からの誘致の可能性は低い ✓ 県内大会は収益性が低い
5	ハンドボール	✓ 代表（特に女子）のニーズがある ✓ 実業団は男女ともに沖縄のクラブがあるため、リーグ戦における対戦相手の練習会場としてのニーズがある ✓ 子ども達の競技人気は高い	✓ 補助金等のニーズが高い ✓ 松脂使用（代表及び実業団）による運用リスクあり。管理者での松脂清掃には大変な手間を要する一方で、利用者に原状回復義務として負担してもらう施設もあり、運用管理の考え方により負担軽減を図ることは可能
6	フットサル	✓ 子ども達のサッカー人気は高い（ただし、誘致対象はフットサル）	✓ 正規サイズのコートへのニーズは確認できたが、継続的な利用を保持できない可能性が高い ✓ 代表・クラブともに資金面でも厳しい
7	トランポリン	✓ ナショナルチームの合宿ニーズおよび誘致実績ある ✓ 地元の協力体制も整っており継続性も期待できる ✓ 大会の誘致可能性も高い	✓ 合宿は参加人数が少ないため収益性が低く、かつ、器材の準備が必要（現状はリースで対応）

#	競技	ポジティブ要因	ネガティブ要因
8	新体操	✓ フェアリージャパンは、競技者に限らず老若男女幅広い世代に人気であり、今後日本拠点に活動をする中で公開演技会にも前向き	✓ 左記の演技会誘致には補助金が必須となっている ✓ 合宿・大会誘致についても補助金が必須であり、かつ、設備に関する初期・運用費用が高い
9	eスポーツ	✓ 子ども達の人気や成長余力は他のスポーツに比べて高い	✓ 汎用性の低いeスポーツ専用施設・設備・器具を整備する必要がある ✓ 深夜帯の特別対応が求められる可能性ある
10	プロ野球	✓ 経済効果と市民（子ども達）への好影響は非常に大きく、継続性についても問題なし	✓ 練習は原則非公開
11	Jリーグクラブ	✓ 60クラブの手堅いニーズがあり、経済効果と市民（子ども達）への好影響は大きい	✓ クラブの定着に課題あり
12	デフバレーボール	✓ パラスポーツ誘致を行うことによる社会的意義醸成、および24年沖縄での世界選手権、25年東京デフリンピックによる気運上昇	✓ 収益性の有無に疑義ある ✓ 競合施設の建設によるニーズが将来減退する可能性が高い

<誘致対象競技の絞り込み>

- 各競技の判定結果に基づき、評点の高い以下の競技を、受入シナリオの設定および受入効果の検証対象並びに現地調査における聞き取り対象とする。
 - ・バスケットボール
 - ・バレーボール
 - ・バドミントン
 - ・トランポリン
 - ・ハンドボール
- プロ野球およびJリーグクラブについては、過去に受入実績があり、特にプロ野球については阪神（2軍）との覚書も締結しているため、特別な誘致活動は実施しないこととする。
- なお、誘致対象としない競技（以後の検討を実施しない競技）についても、外部環境の変化により合宿・大会へのニーズが顕在化する可能性もあるため、対象外とした競技についても引き続き検討を進めていくことが望ましい

2. 受入シナリオの設定（年間カレンダーの策定）

シナリオ別の経済効果の試算（第4章3(2)）においてBase case（＝確度が高く、毎年の実施が見込まれる合宿・大会）およびUpside case（＝Base caseに、確度が低いが補助金が必要なくても毎年の実施が見込まれる合宿・大会と、補助金がなくとも数年に一度の実施が見込まれる合宿・大会の一部を加えたもの）として想定した合宿・大会を年間カレンダーとして以下に纏めた。なお、Base caseに区分された合宿・大会、Upside caseに区分された合宿・大会は、次頁以降に確度別、補助金の必要有無、実施頻度別にて分類している。

＜年間カレンダーのサマリー＞

競技	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
バスケット	日本代表合宿（男子_U19） 4/16～18 アリーナ、サブアリーナ、プール、トレーニング室 U						九州大会（インターハイ） 6/18～20 アリーナ、多目的室 U			日本代表合宿（男子_U19） 6/21～28 アリーナ、サブアリーナ、プール、トレーニング室 U					プロ・実業団合宿 8/26～9/1 アリーナ、サブアリーナ、プール、トレーニング室 U																					
バレーボール				九州大会（全九州バレーボール総合選手権大会） 5/12～14 アリーナ、サブアリーナ、トレーニング室、多目的室 U																										大学合宿 3/12～18 アリーナ、プール、トレーニング室、多目的室 U						
バドミントン													全国大会（全国小学生ABCバドミントン大会） 8/12～14 アリーナ、サブアリーナ、多目的室 U																①大学合宿 3/16～20 アリーナ、プール、トレーニング室 B			②プロ・実業団合宿 3/21～24 アリーナ、プール、トレーニング室 B				
ハンドボール										プロ・実業団合宿 7/18 アリーナ、プール、トレーニング室、多目的室 B				プロ・実業団合宿 8/11 アリーナ、プール、トレーニング室、多目的室 B																高校生以下合宿 2/23～27 メインアリーナ B						
トランポリン																														B ①日本代表合宿 3/1～6 アリーナ、プール、トレーニング室、多目的室 U ②クラブ合宿 3/6～8 アリーナ、プール、トレーニング室、多目的室						
野球																															プロ・実業団合宿（阪神タイガース） 2/1～28 サブアリーナ、プール、トレーニング室、多目的室 B九州大会（全九州選手権） 3/30～4/1 アリーナ、サブアリーナ、トレーニング室、多目的室 U					
サッカー																															プロ・実業団合宿（町田ゼルビア） 1/16～23 アリーナ、プール、トレーニング室 B					

凡例

B

：Base caseに設定した合宿・大会

U

：Upside case設定した合宿・大会のうち、Base caseから追加された合宿・大会

<A：確度が高く、補助金の交付が必要なく、毎年の実施が見込まれる合宿・大会等>

#	競技	分類		※	実施 時期	利用 期間	利用 施設	利用 人数	観客 人数
A1	トラン ポリン	日本代表	合宿	※1	3/1(木)～ 6(火)	6日	アリーナ orサブア リーナ、 プール、ト レーニング 室、多目的 室	10人	—
A2	バドミ ントン	プロ・実業 団	合宿	※2	3/21(水) ～24(土)	4日	メインア リーナ、 プール、ト レーニング 室	7～ 15人	—
A3	バドミ ントン	大学	合宿	※3	3/16(金) ～20(火)	5日	メインア リーナ、 プール、ト レーニング 室	40人	—
A4	野球	プロ・実業 団(阪神タ イガース)	合宿	※4	2/1(木)～ 28(水)	28日	サブアリー ナプール、 トレーニング 室、多目 的室	42人	—
A5	サッカー	プロ・実業 団(町田ゼ ルビア)	合宿	※5	1/16(火) ～23(火)	8日	アリーナ、 プール、ト レーニング 室	58人	—

※1： 現施設での合宿実績あり。利用人数は最大でナショナルチーム①男②女、次世代チーム③男④女の合計4チーム(4チーム×10人程度)の可能性もあり。実施時期はヒアリング調査結果(実施時期1月～3月中旬)をもとに仮設定、利用期間は5～7日間程度(上記6日間は平均日数を記載)

※2： 琉球ブルファイツ経由での他地域実業団の合宿誘致(例：コンサドーレ札幌)

※3： 日本体育大学バドミントン部合宿(石川県七尾春合宿)参照

※4： 主にドーム、野球場、サブグラウンド等を使用するが、ウェイトトレーニングや選手のリハビリとして、トレーニング室及びプール等一部屋内施設の利用を想定

※5： メインアリーナは雨天時のみ使用

<B：確度が高く、補助金の交付が必要であるが、毎年の実施が見込まれる合宿・大会等>

#	競技	分類		※	実施 時期	利用 期間	利用 施設	利用 人数	観客 人数
B1	ハンド ボール	プロ・実業 団	合宿	※1	7/18（火）、 8/11（金）	2～3日	メインア リーナ、 プール、ト レーニング 室、多目的 室	30～ 35人	—
B2	ハンド ボール	高校生以下	合宿	※2	2/23（金） ～27（火）	7日	メインア リーナ	40人	—

※1： ハンドボールリーグ期間中アウェーチームの合宿先（2022年実績7月、8月）

※2： 全国大会（3月選抜）前に強豪校を中心とした合宿を開催した場合で仮置き

<C：確度が低く、補助金の交付が必要なく、毎年の実施が見込まれる合宿・大会等>

#	競技	分類		※	実施 時期	利用 期間	利用 施設	利用 人数	観客 人数
C1	トラン ポリン	その他	合宿	※1	3/6(火)～ 8(木)	3日	アリーナ orサブア リーナ/ト レーニン グ室	30人	—
C2	バスケット ボール	プロ・実業 団	合宿	※2	8/26(日) ～9/1(金)	7日	アリーナ、 サブアリー ナ、プール トレーニン グ室	23～ 43人	—

※1 複数の体操クラブによる合同合宿。過去実績はないが、企画検討の余地あり。実施時期は学生の春休み期間(3月頃)での実施を想定し仮設定、利用期間は3～4日間程度(上記には便宜上3日間で記載)

※2： 予算のある実業団に限られる。各クラブとも本拠地アリーナを使用する傾向あり

<D：確度が低く、補助金の交付が必要であるが、毎年の実施が見込まれる合宿・大会等>

#	競技	分類		※	実施 時期	利用 期間	利用 施設	利用 人数	観客 人数
D1	バスケット ボール	大学	合宿	※1	2/28(水) ～3/2(金)	3日	アリーナ、 トレーニング 室、多目 的室	45人	—
D2	バスケット ボール	その他	地元 カップ	※2	5/3(水)～ 5(金)	3日	アリーナ、 サブアリー ナ、多目的 室	200人	400人
D3	バレー ボール	プロ・実業 団	合宿	※3	6/19(月)～ 23(金)	5日	アリーナ、 プール、ト レーニング 室、多目的 室	30～35 人	—
D4	ハンドボ ール	その他	地元 カップ	※4	10/14(土) ～16(月)	3日	アリーナ、 プール、ト レーニング 室	276人	200人

※1： 関西学生バスケットボール連盟 スプリングキャンプを参照

※2： 能代カップ（九州カップ）開催。実施時期や参加校数は能代カップを参照

※3： 実施時期はヒアリング調査結果(実施時期6月～8月)をもとに仮設定、利用期間は5～6日間程度(上記には便宜上5日間で記載)

※4： サニックスカップU-17ハンドボール交流大会を参照

<E：補助金の交付が必要なく、数年に一度の実施が見込まれる合宿・大会等>

#	競技	分類		※	実施 時期	利用 期間	利用 施設	利用 人数	観客 人数
E1	バレー ボール	日本代表	合宿	※1	5/11(木)～ 19(金)	8日	アリーナ/ プール/ト レーニン グ室/多目的 室	30人	—
E2	バレー ボール	大学	合宿	※2	3/12(月)～ 18(日)	7日	アリーナ/ プール/ト レーニン グ室/多目的 室	35人	—
E3	バレー ボール	プロ興行	大会	※3	8/19(土)～ 20(日)	3日	アリーナ/ トレーニン グ室/多目 的室	30人	1400人
E4	バレー ボール	全国大会	大会	※4	11/11(土)～ 12(日)	3日	アリーナ/ サブアリー ナ/トレー ニング室/ 多目的室	1500人	700人
E5	バレー ボール	九州・沖縄 大会	大会	※5	5/12(金)～ 14(日)	4日	アリーナ/ サブアリー ナ/トレー ニング室/ 多目的室	1500人	不明
E6	トラン ポリン	国際大会	大会	※6	8/5(土)～ 6(日)	3日	アリーナ/ サブアリー ナ/トレー ニング室/ 多目的室	200～ 300人	300人
E7	トラン ポリン	全国大会	大会	※7	10/14(土)～ 15(日)	3日	アリーナ/ サブアリー ナ/トレー ニング室/ 多目的室	250～ 350人	150人
E8	トラン ポリン	西日本大会	大会	※8	9/22(金)～ 24(日)	3日	アリーナ/ サブアリー ナ/トレー ニング室/ 多目的室	400～ 500人	400人
E9	トラン ポリン	九州大会	大会	※9	3/30(金)～ 4/1(日)	3日	アリーナ/ サブアリー ナ/トレー ニング室/ 多目的室	200人	150人

<E：補助金の交付が必要なく、数年に一度の実施が見込まれる合宿・大会等>

#	競技	分類	※	実施 時期	利用 期間	利用 施設	利用 人数	観客 人数
E10	バスケットボール	男子日本代表	合宿 ※10	6/6（火）～ 12（月）	7日	アリーナ、 サブアリーナ、 プール、 トレーニング室	23～ 45人	－
E11	バスケットボール	男子日本代表_U19	合宿 ※11	4/16（日）～ 18（火） 6/21（水）～ 28（水）	3～ 8日	アリーナ、 サブアリーナ、 プール、 トレーニング室	28人	－
E12	バスケットボール	男子日本代表_U18	合宿 ※12	11/28（火）～ 12/1（金） 4/14（金）～ 17（月） 5/16（火）～ 19（金）	3～ 5日	アリーナ、 サブアリーナ、 プール、 トレーニング室	27～ 34人	－
E13	バスケットボール	女子日本代表	合宿 ※13	5/7（日）～ 20（土） 6/7（水）～ 19（日）	13～ 14日	アリーナ、 サブアリーナ、 プール、 トレーニング室	25人	－
E14	バスケットボール	女子日本代表_U18	合宿 ※14	5/10（水）～ 12（金）	3日	アリーナ、 サブアリーナ、 プール、 トレーニング室	27～ 34人	－
E15	バスケットボール	九州大会	大会 ※17	6/18（日）～ 20（火）	3日	アリーナ、 サブアリーナ、 多目的室	254人	不明
E16	バドミントン	九州・沖縄大会	大会 ※15	5/19（金）～ 21（日）	3日	アリーナ、 サブアリーナ、 多目的室	75人	不明
E17	バドミントン	全国大会	大会 ※16	8/12（日）～ 14（月）	3日	アリーナ、 サブアリーナ、 多目的室	400人	1,000人

□：オレンジの枠囲みの合宿・大会について、経済効果を算出することとした（仮定：すべての合宿、すべての大会が誘致できるわけではなく、数種ある合宿・大会の中から、各競技ごとに合宿として1つ、大会として1つが誘致可能と考えた）

- ※1： 実施時期については、2022年日本代表女子の合宿実績を参照
- ※2： 実施時期は学生の春休み期間での実施を想定し仮設定
- ※3： 実施時期については、2022年「女子バレーボール世界選手権壮行試合 日本代表紅白戦 ミズノマッチ in 姫路」を参照、観客数はデロイト推計
- ※4： 実施時期については、2022年「全国ヴィンテージ8's バレーボール交流大会」を参照
- ※5： 実施時期については、2022年「全九州バレーボール総合選手権大会」を参照
- ※6： 実施時期については、2018年「ワールドカップ前橋大会」を参照
- ※7： 実施時期については、2022年「第59回全日本選手権(鹿児島アリーナ)」を参照
- ※8： 実施時期については、2022年「第50回 西日本選手権(石川)」を参照
- ※9： 実施時期については、2023年「第17回全九州選手権(熊本)」を参照
- ※10： バスケットボール 男子日本代表チーム ディベロップメントキャンプ
- ※11： バスケットボール U19 男子日本代表チーム 強化合宿（1次～3次）
- ※12： バスケットボール U18 男子日本代表チーム 強化合宿（1次～3次）
- ※13： バスケットボール 女子日本代表チーム 強化合宿（1次～2次）
- ※14： バスケットボール U18 女子日本代表チーム 強化合宿（1次）
- ※15： バスケットボール インターハイ九州大会
- ※16： バドミントン 九州学生リーグ
- ※17： 全国小学生ABCバドミントン大会

<F：補助金の交付が必要であり、数年に一度の実施が見込まれる合宿・大会等>

#	競技	分類		※	実施 時期	利用 期間	利用 施設	利用 人数	観客 人数
F1	ハンド ボール	日本代表	合宿	※1	4/9（日）～ 16（日） 4/23（日） ～5/7（日）	8～ 16日	アリーナ/ サブアリー ナ/プール/ トレーニング 室/多目的 室	30人	－
F2	トラン ポリン	大学	合宿	※2	3/12(月)～ 17(土)	6日	アリーナ/ プール/ト レーニン グ室/多目的 室	25～45 人	－
F3	トラン ポリン	プロ興行	大会	※3	3/16(金)～ 18(日)	3日	アリーナ orサブア リーナ	100人	200人
F4	ハンド ボール	全国大会	大会	※4	11/3（金） ～7（火）	5日	アリーナ/ 多目的室	1664人	不明
F5	ハンド ボール	九州大会	大会	※5	9月14日 （金）～15 日（土） 9月21日 （金）～22 日（日） 10月5日 （金）～6日 （土） 10月12日 （金）～15 日（月）	10日	アリーナ/ 多目的室	420人	不明
F6	ハンド ボール	九州大会	大会	※6	9/22（土） ～23（日）	2日	アリーナ/ サブアリー ナ/多目的 室	336人	不明

※1： ハンドボール女子日本代表2023年度合宿

※2： 実施時期は学生の春休み期間での実施を想定し仮設定、利用期間は5～7日間を見込む(上記6日間は平均日数を記載)

※3： 実施時期は学生の春休み(3月頃)かつ週末の開催を想定し仮設定

※4： 全日本学生選手権（インカレ）を想定。各県手上げ制で開催地が決定。2022年度インカレ（男女計64校、各大学26名参加）を参照。他施設との共催を前提とする

※5： 九州学生ハンドボールリーグ、2022年度秋季大会（男女計21チーム、各チーム20人参加）を参照。他施設との共催を前提とする

※6： 日本ハンドボール選手権九州予選（男女計14チーム、各チーム24人参加）を参照。コート2面（メインアリーナ1面、サブアリーナ1面）確保及びサブアリーナへ観客席設置が出来た場合

3. 受入効果の検証

①スポーツコンベンションによる経済的効果

(1)経済効果にかかる計算方針

「2. 受入シナリオの設定（年間カレンダーの策定）」にて想定した合宿・大会における参加人数等に、下表で想定した価格を乗じた金額を経済効果として算出する。

なお、選手等の参加人数等にレンジがある場合には平均の人数を、大会における観客数が判明している場合は判明している人数の半分の県外からの観客と仮定、また、大会における観客数が不明の場合は人数が判明している大会（E4、E7、E8、E9、E17）の平均観客人数の半分（117人）を県外からの観客と想定して計算する。

また、大会によっては観客人数が宿泊施設の収容人数の上限を超過してしまう場合があるが、計算上は、すべて下表の価格で、うるま市で受入可能であるという前提を置いて計算をしている。

費目		収益計上 主体	計算前提	想定金額
施設利用料		うるま市	次ページ参照	
県内交通費	レンタカー（空港⇄ホテル）	沖縄県の民間企業	琉球バス交通 ① 小型（～25名） ② 中型（～40名） ③ 大型（～60名）	① 32,460円（高速代金含む） ② 38,460円（高速代金含む） ③ 45,460円（高速代金含む）
	シャトルバス（ホテル⇄具志川）		琉球バス交通 ① 小型（～25名） ② 中型（～40名） ③ 大型（～60名）	① 54,000円 ② 63,000円 ③ 77,000円 ※朝から夜までの運転手の拘束時間（8時間）含む ※アンサ沖縄リゾートは送迎ないが、AJリゾートアイランド伊計島は無料送迎あり
	移動費		＜県外からの観客＞※	2,767円／1日
宿泊費（朝食等含む）		うるま市の民間企業	＜学生向け＞ 春日観光ホテル	1名1室8,000円（1泊2食） ※学生の合宿利用料金 ※シーズンの変動なし
			＜プロ・実業団向け＞ ＜県外からの観客＞ アンサ沖縄リゾート	ハイシーズン（5月～12月） 1名1室13,000円（1泊1食） オフシーズン（1月～4月） 1名1室10,500円（1泊1食）
飲食費（ホテル昼食）			＜選手＞ アンサ沖縄リゾート	2,200円（ケータリング可）
飲食費（ホテル夕食）				3,300円
飲食費（ホテル外）		沖縄県の民間企業	＜県外からの観客＞※	4,205円／1日
土産・買物費			＜県外からの観客＞※	13,821円

※：沖縄県「平成29年度観光統計実態調査」における国内観光客1人当たり県内消費額（2017年度）から算出。移動費、飲食費（ホテル外）は、1人当たりの県内消費額10,376円、15,769円を平均滞在日数（3.75日）で除した金額として算出

＜施設利用料＞

沖縄県内の6つの施設の利用料金を調査した。そのうち、豊見城市民体育館が合宿・大会の受け入れ実績・サイズ・建築年月等の観点から最も本件に近似する施設であった。一方で、その他の施設の金額水準も加味すべきと考えたため、近似するその他の2施設（沖縄市体育館、那覇市民体育館）も加えた3施設の平均単価を経済効果算出の基礎にすることとした。ただし、観客席・ランニングコースとプールに関しては、同3施設にないため、沖縄県総合運動公園体育館、西崎総合体育館の価格を参考にした。

1日の専用利用料
単位：円

施設名		豊見城市民 体育館	沖縄市 体育館	那覇市民 体育館	3施設平均*
アマチュア	メインアリーナ	127,400	119,980	206,360	151,247
	観客席・ランニングコース				1,800*1
	サブアリーナ	33,800		49,856	27,885
	プール				7,560*2
	トレーニング室	70,720	36,000	24,000	43,573
	多目的室（合宿／会議室1室）	5,200	3,840	1,288	3,443
	多目的室（大会／大会議室1室＋更衣室・会議室4室＋審判室＋ドーピング室）	36,400	26,880	26,768	30,016
プロ・大会イベント	メインアリーナ	161,200	153,300	217,816	177,439
	観客席・ランニングコース				1,800*1
	サブアリーナ	67,600		54,208	40,603
	プール				7,560*2
	トレーニング室	70,720	36,000	24,000	43,573
	多目的室（合宿／会議室1室）	5,200	3,840	1,288	3,443
	多目的室（大会／大会議室1室＋更衣室・会議室4室＋審判室＋ドーピング室）	36,400	26,880	26,768	30,016

※上表は、照明代、清掃代、冷房代等の使用に伴う料金も含む

*1：唯一料金設定されていた西崎総合体育館の金額を使用

*2：専用利用にかかる料金設定がある沖縄県総合運動公園 体育館の金額を使用

(2) シナリオ別の経済効果の試算

<Base Case>

受入シナリオの設定において、A、Bに分類した合宿・大会（＝確度が高く、毎年の実施が見込まれる合宿・大会）にかかる経済効果は、以下の通りである。

A：確度が高く、補助金の交付が必要なく、毎年の実施が見込まれる合宿・大会等

B：確度が高く、補助金の交付が必要であるが、毎年の実施が見込まれる合宿・大会等

単位：千円

収益計上主体	うるま市	うるま市の民間企業		沖縄県の民間企業			合計
費目	施設利用料	宿泊費	飲食費	県内交通費	飲食費	土産・買物費	
バスケットボール	0	0	0	0	0	0	0
バレーボール	0	0	0	0	0	0	0
バドミントン	1,696	1,627	1,174	673	0	0	5,169
ハンドボール	1,272	1,914	1,308	626	0	0	5,120
トランポリン	1,239	525	297	389	0	0	2,450
プロ野球							
Jリーグクラブ		令和4年度の実績数値を調査中					
小計	4,207	4,065	2,778	1,688	0	0	12,739
合計	うるま市の合計：11,051			沖縄県の合計：1,688			12,739

バドミントンによる経済効果が最も大きく、合宿2件（A2、A3）で合計9日間、トランポリンは合宿1件（A1）で6日間の利用を想定する。トランポリンは、合宿1件（A1）、6日間の利用を見込んでいる。バドミントンと合わせて、いずれもAに区分され、補助金がなくとも誘致可能な競技であり、手堅い経済効果であると言える。

ハンドボールは合宿2件（B1、B2）、合計7～8日間の利用を見込む。合宿は、観客による移動費、宿泊費、食費、土産・買物費が見込めないため、経済効果は低く金額となっている。

＜Upside Case＞

受入シナリオの設定において、A、B、C、E（＝Base caseに、確度が低いが補助金が必要なくても毎年の実施が見込まれる合宿・大会と、補助金が必要なくても数年に一度の実施が見込まれる合宿・大会の一部を加えたもの）に分類した合宿・大会にかかる経済効果は、以下の通りである。

- A：確度が高く、補助金の交付が必要なく、毎年の実施が見込まれる合宿・大会等
 B：確度が高く、補助金の交付が必要であるが、毎年の実施が見込まれる合宿・大会等
 C：確度が低く、補助金の交付が必要なく、毎年の実施が見込まれる合宿・大会等
 E：補助金の交付が必要なく、数年に一度の実施が見込まれる合宿・大会等

※Eについては、E2、E5、E9、E11、E15、E17にかかる経済効果を計算対象とした

単位：千円

収益計上主体	うるま市	うるま市の民間企業		沖縄県の民間企業			合計
費目	施設利用料	宿泊費	飲食費	県内交通費	飲食費	土産・買物費	
バスケットボール	2,294	9,238	4,514	2,936	1,262	421	20,665
バレーボール	2,356	41,580	29,282	14,332	1,682	421	89,653
バドミントン	2,440	21,027	6,454	11,227	6,308	2,103	49,558
ハンドボール	1,272	1,914	1,308	626	0	0	5,120
トランポリン	2,567	6,155	3,333	2,866	946	315	16,183
プロ野球							
Jリーグクラブ		令和4年度の実績数値を調査中					
小計	10,930	79,913	44,891	31,988	10,197	3,259	181,178
合計	うるま市の合計：135,734			沖縄県の合計：45,444			181,178

バレーボールによる経済効果が最も大きく、合宿1件（E2）及び大会1件（E5）の11日間の利用を想定している。経済効果が大きくなった主な理由は、誘致する大会が全国大会であり、1,500人の参加者と県外からの350人の観客を見込んでおり、これが大きな経済的なインパクトを生み出している。バドミントンは、合宿2件（A2、A3）及び大会1件（E17）の12日間の利用を想定している。バレーボールと同じく、大会は全国大会を想定しており、400人の参加者と県外からの500人の観客を見込んでいる。ただし、バレーボール・バドミントンの全国大会は、いずれもEに区分しているものであり、毎年誘致できるものではないことに注意が必要である。数年に一度ではあるが、Upsideのケースとして上表程度の経済インパクトを生み出すことも可能であると理解するのが適切である。

バスケットボールは合宿2件（C2、E11）および大会1件（E15）の13～18日間の利用を想定している。Upsideとして見込んだ合宿のひとつはプロチームを、もうひとつは男子日本代表（U19）を想定したものである。いずれも経済的な効果は大きくないものの、憧れの選手が訪れる合宿であるため、社会的効果も含め定着化を狙っていくことが望まれる。また、Upsideとして見込んだ大会は九州・沖縄大会であり、利用人数と県外からの観客を合わせて371人と規模としては大きくないものの、バスケットボールは将来的に大きな大会を誘致するためにも、このような小さい大会も実績として積み上げていくことが重要である。

ハンドボールはUpsideとして追加で見込んだものはなく、トランポリンは合宿1件（C1）大会1件（E9）をUpsideとして見込んだ。

②スポーツコンベンションによる社会的効果

スポーツ庁における「地域スポーツコミッション」の設立・活動を支援する事業では、スポーツコンベンション等の効果は、アウトター事業（交流人口向け活動）による経済的効果と、インナー事業（住民向け活動）による社会的効果の2つがあるとしている。経済的な効果については前頁に記載したものが想定されるが、社会的な効果としては以下の効果が期待される。

■ 地域スポーツの活性化

➤ スポーツへの取り組み意欲の向上

プロのスポーツチームとうるま市子どもたちとの触れ合いの場を設けることで、子どもたちのスポーツへの取り組み意欲が向上することが期待される。特に、中学生において競技人口が多いバスケットボールやバレーボールの誘致を行うこと、また、近年人気が高まっているバドミントンの誘致を行うことは、うるま市の若年層に対する効果が大きいと考えられる。

➤ 競技力の向上とモチベーションのアップ

プロのスポーツチームとうるま市内の団体との交流試合を実施することで、うるま市民の競技力が向上し、モチベーションもアップすることが期待される。

➤ 市民の利便性向上

スポーツコンベンションにも耐える施設環境を整備することで、市民の利便性が向上し、市民のアリーナ利用が活発化することが期待される。

➤ 部活動の地域移行への対応

スポーツコンベンションを通じて、沖縄県内のプロや実業団のチームがうるま市を拠点として活動することになれば、学校の運動部活動の地域移行への対応が促進される。また、スポーツコンベンションを通じた指導者の育成にも注力できれば、指導者の地元定着も期待できる。



■ 北海道コンサドーレ札幌バドミントンチームvs.琉球ブルファイツのエキシビジョンマッチ



■ 憧れの選手との対戦と直接指導

参考画像：うるま市公式webサイト“うるま時間”

■ 地域への社会的な効果

➤ 地域コミュニティの活性化

スポーツの大会では、地域の多くの人々がボランティア活動などを通じて一体となって協力し、人々が交流する機会を提供することになる。したがって、屋内競技を含めた様々な大会をうるま市に誘致することで、地域コミュニティがより一層活性化することが期待される。

➤ スポーツを通じた新たな産業の創出

屋内競技は企業スポーツとして活動するチームが多いため、誘致するチームに関連する企業との長期的な関係構築が可能となる。特に、バレーボール、バドミントン、ハンドボールに関しては、国内有数の大企業が支援しているチームも多いため、産業面での連携が期待できる。

➤ スポーツを通じた国際交流の促進

沖縄県のスポーツコンベンションは、様々な国や地域から選手やコーチ、関係者などが集まるため、スポーツを通じた国際交流が可能となる。

■ 地域の魅力の発信

➤ 地域ブランドの向上

スポーツコンベンションを実施することで、うるま市を訪れた選手や観客などが、食事や観光等を通して沖縄県の文化やうるま市の魅力を体験してもらうことができる。また、発信力のあるスポーツを通じてうるま市のPRを実施することで、地域の魅力をアピールすることができ、うるま市のブランド力向上につなげることが期待される。



参考画像：
うるま市公式webサイト
“うるま時間”

■ 合同合宿には、国内有数の大企業である“三菱自動車”のバドミントンのチームが参加しており、引き続き同社との関係強化を見込む

■ 公式webサイトに掲載することで、うるま市の魅力を発信している

第5章 アリーナ整備への申し送り事項

1. 誘致競技の受入れに必要な施設・設備・備品にかかる考察

誘致競技と定めたバスケットボール、バレーボール、バドミントン、ハンドボール、トランポリンに関して、アリーナ整備にあたり留意する必要がある事項を施設・設備・備品の観点から纏めた。

①施設

アリーナの建築物の構造（躯体）に関係するものとして、基本設計に反映する必要があるものは、以下の通りである。

【メインアリーナ／サブアリーナ】

参考施設

①福岡市総合体育館 ②豊見城市民体育館

競技	分類	必要性	施設名	要求事項	詳細
共通	大会 合宿	必須	メインアリーナ	観客席の安全性確保	②では観客席の最前列のバーおよび壁が低く、子どもが身を乗り出すと転落等の危険があるのではないかという意見が利用者より寄せられたとのこと。より多くの人々に安心して利用いただける施設環境整備のため、観客席の安全性の確保を基本設計段階で十分に考慮しておくは必須であると思料。
共通	大会 合宿	推奨	サブアリーナ	観客席	②ではサブアリーナの壁面に人が座ったり、荷物置くことのできるベンチが設置されており、一般利用ほか、観客用ベンチとしても利用可能であり有用だと思料。
バドミントン	大会	推奨	メインアリーナ	面数確保	メインアリーナ14面、サブアリーナ4面の計18面以上あれば単独での大会開催ができる。
バドミントン	大会 合宿	推奨	メインアリーナ・サブアリーナ	壁面の配色	②では、メインアリーナの壁面が白色であることから、バドミントンのシャトルが見えにくいという意見が利用者から複数寄せられている。
トランポリン	大会 合宿	必須	メインアリーナ	天井高	天井の高さは12m以上必要であり、吊り下げ式のビジョン等天井に設置する設備・備品等が想定される場合には注意が必要（選手は9-10m程度の高さまで跳躍する）。
ハンドボール	大会	必須	メインアリーナ	面数確保	コート面数を2面確保できれば大会を開催できるため、今後の整備計画の中で、サブアリーナでもハンドボールコートを確認できないか検討することが望ましい（ハンドボールは、プロ・アマ・学生問わず、コート1面の大きさが40m×20mと定められている）

①施設

参考施設

①福岡市総合体育館 ②豊見城市民体育館

【その他諸室/共用部/全体】

競技	分類	必要性	施設名	要求事項	詳細
共通	大会	—	会議室 多目的室	諸室の数	大会時は諸室が6室以上必要であるとの意見もあり（ハンドボールの九州・沖縄大会）、また、全国大会において代表者会議等を実施する場合には大きな会議室が必要になるとの意見があった。現状の設計（小会議室＋中会議室＋多目的室4つ）であれば充足していると判断した。
共通	大会	推奨	ロッカー	チーム数	バスケットボールにおいて試合を組む場合には、チームごとに6つ程度のロッカーが必要になるとのご意見があった。現状のロッカーは男女と多目的更衣室の3つであるが、それぞれ中でチームごとにわけられる仕様にできるかの検討が必要である
共通	大会 合宿	推奨	多目的室	部屋の位置	特にメイン・サブ両方を使用する大会や合宿時にはメインアリーナとサブアリーナの状況が一度に見渡すことのできる位置に多目的室があると便利であるという意見が、②の利用者からあった。緊急時等の観点からも、このようなスペースがあると状況把握がしやすくなると思料
共通	大会	推奨	動線	大会関係者と一般客の動線確保	大会関係者と一般客とで施設内動線を分け、スムーズな運営ができるよう配慮されるとよい。①では、1・2階の南北通路により、諸室にアクセスしやすい構造とし、大会関係者は1階（審判諸室や控室を設置）、一般の観客は2階より観客席にアクセスできる。
共通	大会	推奨	観客席	配色	観客席を黒とすることで、競技面に集中しやすくなる。また主な利用者別に配色を変えることで、空間用途を認識させるのも一案である。①では、メインアリーナの座席は黒、サブアリーナは白で統一しており、プロと市民スポーツとの対比がされている。
共通	大会 合宿	推奨	トイレ	男女切替可能、ウォークスルー	混雑を避けるため、①では、パーティションを用いて男性・女性専用として切替可能なトイレを1か所設けている。また女性専用のウォークスルートイレを設置している。

②設備

参考施設

①福岡市総合体育館 ②豊見城市民体育館

アリーナの建築物の中に組み込む必要があるものとして、基本設計に反映する必要があるものは、以下の通りである。

【メインアリーナ／サブアリーナ】

競技	分類	必要性	設置場所	要求事項	詳細
共通	合宿大会	推奨	メインアリーナ／サブアリーナ	ライン	メジャーがなくてもラインが引けるように杭を打っておくか、Jヴィレッジの檜葉スカイアリーナにあるように1mmくらいの黒いラインが引いてあると良い。①では、計3回のウレタン塗装の2,3回目の間に塗装することで、ラインを消えにくくしている。大会時には、主催者側で専用テープを使って不要なラインを隠している。
共通	合宿大会	必須	メインアリーナ	カメラ設置場所	撮影用のカメラが設置できる場所と電源の確保が必要（ハンドボールの大会においては、ゴール裏からの撮影も推奨されている）
共通	大会	推奨	メインアリーナ	ビジョン	トランポリンの大会においては大型のビジョンがあることが推奨されている。誘致する競技の選定と、費用対高価に鑑み、導入余地があれば検討を進めることが推奨される。
共通	大会	推奨	メインアリーナ・サブアリーナ	増設用観客席	既存の収容人数を超える規模の大会やイベント誘致に観客席の増設ができることを推奨（既存の観客席とシームレスに増設することのできる観客席が望ましい）①では可動式観客席を採用。
共通	大会	推奨	メインアリーナ	電源	想定される利用者・利用シーンに沿った電源種類を用意する必要がある。①では電動車いす用、テレビ中継などの通信用の接続口を2種用意している。
バドミントン	合宿大会	—	メインアリーナ・サブアリーナ	空調	輻射式の空調は必須ではないが、シャトルが風の影響を受けないよう留意が必要

②設備

参考施設

①福岡市総合体育館 ②豊見城市民体育館

【メインアリーナ／サブアリーナ】（続き）

競技	分類	必要性	設置場所	要求事項	詳細
バスケット	合宿大会	推奨	メインアリーナ／サブアリーナ	常設リングの設置（バスケットボール）	壁面式バスケット装置をメインアリーナとサブアリーナに常設することが推奨される（購入数量、単価については③備品ご参照）また①では、大会時はセンターコートで可動式ゴールを利用。複数の利用シーンを考慮すると、常設・可動式で柔軟にレイアウトを変更できることが望ましい。

写真

壁面式バスケット装置（アリーナ立川立飛）

【その他諸室/共用部/全体】

競技	分類	必要性	設置場所	要求事項	詳細
共通	合宿大会	必須	共用部	製氷機場の場所確保	製氷機を設置する場所の確保と電源・水道管等の確保が必要
共通	合宿	必須	トレーニング室	フリーウェイトの場所確保	フリーウェイトでトレーニングできるエリアを確保する必要がある
共通	合宿	推奨	共用部	飲食スペース	特に合宿時、施設内で昼食(休憩)をとる場合、食事できるスペース（テーブル＋イス）があると親切である（②ではエントランスの共有スペースを利用していたが、新設する多目的室を食事もできる空間として整備予定）
共通	大会合宿	推奨	全体	Wi-Fi	エントランスや共有部だけでなく、メイン・サブアリーナの競技実施スペース含め館内全体に高速wifiを通すこともスポーツ競技全体のDX化に伴い推奨されるところ（②ではエントランス周りのみwifiあり）
トランポリン	大会合宿	推奨	器具庫	湿気対策	トランポリンのネットが湿気を吸って重くなると跳躍時の感覚が異なってしまうため、器具庫での保管時は湿気対策を行うことが望ましい（②）

③備品

誘致する上で必要となる備品は、以下の通りである。（なお、大会の開催に際しては、県内の競技団体が提供してくれる可能性もあるため、購入する前に各競技団体との擦り合わせが必要となる）また、通常の一般利用や県内大会の開催に際して最低限必要になる備品は下記「県内大会」欄に「○」を付している。

<共通>

備品名称	※	利用シーンと必要性			数量	単価* (円)	合計金額 (円)
		県内大会	合宿誘致	大会誘致			
製氷機		○	必須	必須	2	1,152,500	2,305,000
ポータブルステージ		○	推奨	推奨	2	257,400	514,800
フリーウェイト_パワーラック	※1	○	必須	推奨	2	440,000	880,000
フリーウェイト_デュアル・アジャスタブル・ブーリー	※1	○	必須	推奨	2	2,178,000	4,356,000
フリーウェイト_スミスマシン	※1	○	必須	推奨	2	1,156,100	2,312,200
フリーウェイト_グルートドライブ	※1	○	必須	推奨	2	968,000	1,936,000
フリーウェイト_スーパーインプレスベンチ	※1	○	必須	推奨	2	235,400	470,800
フリーウェイト_45°バックエクステンションベンチ	※1	○	必須	推奨	2	228,000	456,000
フリーウェイト_フラットアジャスタブルベンチ	※1	○	必須	推奨	2	254,100	508,200
フリーウェイト_フラットベンチ	※1	○	必須	推奨	2	74,800	149,600
フリーウェイト_クロームダンベル（一式）	※1	○	必須	推奨	1	1,402,500	1,402,500
フリーウェイト_ケトルベル（一式）	※1	○	必須	推奨	1	87,450	87,450
フリーウェイト_ダンベルラック	※1	○	必須	推奨	1	330,000	330,000
フリーウェイト_スタンダードラバーイージープレート（一式）	※1	○	必須	推奨	1	51,150	51,150
フリーウェイト_φ28mm用バー（一式）	※1	○	必須	推奨	1	59,510	59,510
フリーウェイト_プレートホルダー	※1	○	必須	推奨	1	74,800	74,800

③備品

<共通>

備品名称	※	利用シーンと必要性			数量	単価* (円)	合計金額 (円)
		県内 大会	合宿 誘致	大会 誘致			
フリーウェイト_衝撃吸収 マット	※1	○	必須	推奨	20	54,450	1,089,000
アイスバス（ポータブル）	※1		推奨	推奨	4	9,808	39,232
県内大会に必要な備品（○）の小計							17,200,810
スポーツコンベンションに必要な追加備品（推奨も含む）の小計							39,232
合計							17,240,042

*：単価は総合スポーツ器具メーカーであるセノー株式会社のSPORTS PRODUCT GUIDE2022における定価を記載している。なお、複数商品ある場合には、国際規格を除いたものの平均価格を採用している。また、同社に取り扱いのない備品に関しては、ヒアリング先が推奨したメーカー（例：トランポリンは都村製作所の取り扱い商品）や一般の販売店における販売価格を記載している。（以下のページも同様）

※1：競技団体から数の指定はなかったが、最低限、2名の選手が同じ器具でトレーニングできる数量を確保した



写真

参考画像：アイスバス（ポータブル）

画像出所：サクラスポーツ有限公司「キャップラガーズ」ホームページ

＜バスケットボール＞

想定競技面数：4面（大会時）

備品名称**	※	利用シーンと必要性			数量	単価* (円)	合計金額 (円)
		県内 大会	合宿 誘致	大会 誘致			
壁面式バスケット装置		○	必須	推奨	4	357,885	1,431,540
移動式バスケット装置		○	必須	必須	4	8,481,000	33,924,000
ショットクロック表示装置（移動式）	※1		必須	必須	4	242,000	968,000
ファウル回数表示装置			推奨	必須	4	1,298,000	5192000
ポゼッション表示装置			推奨	必須	4	97,900	391,600
スコアボード（デジタル/アナログ）		○	推奨	必須	4	957,550	3,830,200
大音量ホーン（大響ブザー）		○	推奨	必須	2	231,000	462,000
県内大会に必要な備品（○）の小計							39,647,740
スポーツコンベンションに必要な追加備品（推奨も含む）の小計							6,551,600
合計							46,199,340

※1：ショットクロック表示装置はゴール板の後ろに付ける商品もあったが、価格が3倍以上することと、常時つける必要はないと判断したため移動式のものとした

※※：公式試合球は選手等が持参する可能性が高いことから上表から除外した



参考画像：ショットクロック表示装置（移動式）



参考画像：ファウル回数表示装置



参考画像：ポゼッション表示装置

画像出所：株式会社都村製作所ホームページ
セノー株式会社「SPORTS PRODUCT GUIDE2022」

<バレーボール>

想定競技面数：6面（大会時）

備品名称**	※	利用シーンと必要性			数量	単価* (円)	合計金額 (円)
		県内 大会	合宿 誘致	大会 誘致			
バレーボールマシン/サーブマシン			推奨	推奨	1	869,000	869,000
バレーボール用支柱		○	必須	必須	12	330,275	3,963,300
6人制ネット		○	必須	必須	6	43,816	262,896
9人制女子用ネット		○	必須	必須	6	47,300	283,800
バレーボール用アンテナ		○	必須	必須	12	11,550	138,600
支柱カバー		○	必須	必須	12	48,510	582,120
審判台（多種目兼用型）	※1	○	推奨	必須	6	169,400	1,016,400
スコアボード（バレーボール用、アナログ）	※2	○	必須	必須	6	16,400	98,400
防球ネット	※3	○	推奨	必須	4	1,366,310	5,465,240
球技用ネット計測器		○	必須	必須	2	101,200	202,400
ナンバー・パドル		○	推奨	必須	12	107,800	1,293,600
県内大会に必要な備品（○）の小計							13,306,756
スポーツコンベンションに必要な追加備品（推奨も含む）の小計							869,000
合計							14,175,756

※1：バレーボール専用の審判台もあったが、より安い、多種目兼用の商品を選定した

※2：スコアボードは、デジタルのバレーボール専用の商品もあったが、5倍以上の高価な商品であるため検討から外した

※3：防球ネットはメインアリーナ用幅40m×3、サブアリーナ用幅28m×1の計4つが必要

※※：審判用フラッグ、ラインズマン用フラッグ、ボール（公式試合球）は、選手及び審判員が持参する可能性が高いこと、もしくは、大会においては県の競技団体から貸与できると考えたため、上表から除外した

写真

参考画像：サーブマシン

画像出所：有限会社ニッシンエスピーエムホームページ

<バドミントン>

想定競技面数：16面（大会時）

備品名称**	※	利用シーンと必要性			数量	単価* (円)	合計金額 (円)
		県内 大会	合宿 誘致	大会 誘致			
支柱（移動式）	※1		推奨	推奨	8	280,500	2,244,000
支柱（ポスト、固定型）		○	必須	必須	32	38,390	1,228,480
ネット		○	必須	必須	16	11,660	186,560
審判台（バドミントン、 卓球兼用）		○	推奨	必須	16	110,000	1,760,000
スコアボード（バドミン トン用、アナログ）	※2	○	必須	必須	16	149,600	2,393,600
バドミントン用マット	※3		推奨	推奨	4	1,210,000	4,840,000
コート運搬車（コート マット用、木床の場合不 要）			推奨	推奨	1	713,900	713,900
県内大会に必要な備品（○）の小計							5,568,640
スポーツコンベンションに必要な追加備品（推奨も含む）の小計							7,797,900
合計							13,366,540

※1：移動式支柱はコートマットとセットで使用される。一部の代表やプロの試合等、非常に限られたシーンでしか使用されないため、S/Jリーグでのコート数（2面＋予備）分の数とした

※2：スコアボードは、デジタルの商品もあったが高価な商品であるため検討から外した

※3：コートマットは移動式支柱とセットで使用される。一部の代表やプロの試合等、非常に限られたシーンでしか使用されないため、S/Jリーグでのコート数（2面＋予備）分の数とした

※※：シャトルは、選手等が持参する可能性が高いことから上表から除外した



参考画像：支柱（移動式）

参考画像：バドミントン用
マット

参考画像：コート運搬車

画像出所：株式会社都村製作所ホームページ

セノー株式会社「SPORTS PRODUCT GUIDE 2022」

<ハンドボール>

想定競技面数：2面（大会時）

備品名称**	※	利用シーンと必要性			数量	単価* (円)	合計金額 (円)
		県内 大会	合宿 誘致	大会 誘致			
防球（仕切り）ネット		○	必須	必須	4	1,295,149	5,180,560
ハンドボール用ゴール		○	必須	必須	4	515,900	2,063,600
ハンドボール用ネット		○	必須	必須	4	69,850	279,400
ゴールウェイト（15kg砂袋）	※1	○	必須	必須	16	6,380	102,080
松脂クリーナー	※2		必須	必須	5	41,800	209,000
県内大会に必要な備品（○）の小計							7,625,640
スポーツコンベンションに必要な追加備品（推奨も含む）の小計							209,000
合計							7,834,640

※1：ゴールあたり4個使用で計算

※2：大会誘致5回分で計算（日本代表、プロ・実業団での使用を想定）

※※：3号球（高校生以上男子）の公式試合球、2号球（高校生以上女子）の公式試合球は選手が持参する可能性が高いことから上表から除外した



参考画像：松脂クリーナー

画像出所：株式会社モルテン 公式オンラインショップ

<トランポリン>

想定競技面数：4面（大会時 ※大会によって必要面数（台数）が異なるため注意）

備品名称※※	※	利用シーンと必要性			数量	単価* (円)	合計金額 (円)
		県内 大会	合宿 誘致	大会 誘致			
競技用トランポリン	※1	○	必須	必須	4	*下記注釈参照	
マット	※2	○	必須	必須	28		
スポッターマット	※3	○	必須	必須	8		
測定システム	※4	○	推奨	必須	4		
県内大会に必要な備品（○）の小計							—
スポーツコンベンションに必要な追加備品（推奨も含む）の小計							—
合計							—

* トランポリンに関する備品については、これまでの合宿誘致においては競技者の持ち込みにより競技実施をしていること、また市民の一般利用もなく、保管スペースも必要になることから、市での購入は必須ではないと思料し、上記金額の記載はなしとする（必要な備品や数量等の記載のみ）。

※1：合宿は2面（台）あれば実施可能。輸入品のため、価格算定時は為替の影響を受けることに留意。湿気が多い場所での保管は避けることが望ましい

※2：合宿は14枚あれば実施可能。輸入品のため、価格算定時は為替の影響を受けることに留意

※3：合宿は4枚あれば実施可能。輸入品のため、価格算定時は為替の影響を受けることに留意

※4：輸入品のため、価格算定時は為替の影響を受けることに留意

2. 課題整理と対応方針

第3章の調査および第4章の検証において認識された課題を整理し、今後の対応方針を以下の通り定めた。

#	認識された課題	今後の対応方針
アリーナ		
1	「第5章 アリーナ整備への申し送り事項」における各意見をご参照。	次期スポーツコンベンション誘致戦略に従い、誘致対象とする屋内競技にかかる各ニーズを基本設計・実施設計の中に折り込んでいく必要がある。
アリーナ以外		
2	【ランニングスペース】 整備されたランニングスペースへの要望があった。 バレーボール：芝もしくはウッドチップ等で整備されたもの 野球チーム：芝で整備された100m×複数レーン（400mトラックではない）	アリーナの外構、多種目競技場、駐車場等のスペースの一部をランニングスペースとできないかを基本設計の中で検討する。
3	【駐車場】 大会時、駐車場が不足する問題が指摘されている。 （福岡市総合体育館では、最終的に1,000台まで拡張している）	「（仮称）うるま市総合アリーナ整備基本計画」においては駐車場の台数にかかる検討が実施され、大会等開催時には約900台分の駐車場を確保する計画となっている。
具志川周辺エリア		
4	【宿泊施設】 宿泊施設に関して、以下の要望が多くあった。 ✓ 具志川運動公園からホテルまでの距離は、できれば車で15～20分圏内が好ましい ✓ 男子のバスケットボール選手・バレーボール選手は身長が高いため、大きいサイズのベッドが好ましい ✓ ホテルには、ミーティングができるスペースが必須（会議室等）である ✓ ホテルから具志川運動公園までのシャトルバスを用意してほしい ✓ ホテルもしくはホテル近辺に充実したランドリースペースがあることが好ましい	宿泊施設にかかる課題は既に認識されているため、「うるま市スポーツコンベンション誘致戦略」のロードマップに従い、継続して宿泊先の確保にかかる取り組みを強化することが重要である。 ホテルにおけるサービスの充実（ベッドや会議室）に関しては民間事業者の努力となるが、ホテルとバス会社の連携や、ホテルとクリーニング事業者との連携を市が主導して進めていくことで、宿泊とのパッケージを開発することが可能であると考えられる。

#	認識された課題	今後の対応方針
ソフト面		
5	【補助金】 屋内競技に関しては、まだ未成熟の競技であること（野球のような潤沢な資金を有するチームがほとんどいないこと）や、アマチュアや学生に関してはわざわざ沖縄にくるための援助が必要であることから、誘致対象となる5競技に関しても補助金を求める声が多くあった。	既に「うるま市スポーツコンベンション誘致戦略」およびにおいて送迎補助や宿泊費補助に検討が進められているとともに、各種事業において合宿やスポーツイベントに関する補助金の設置が見込まれている。 今後は、令和10年度以降に優先して誘致することが見込まれる屋内スポーツ（特に、補助金が必要とされるバレーボール、ハンドボール、学生）にかかる特別な補助金（一時的なもの）や、誘致活動の強化にかかる費用（特に、合宿・大会の実施場所が決定される令和8～9年度の活動費）を捻出するための財源を確保しておく必要がある。
6	【リレーション】 大会誘致に関しては競技団体を通じた活動が必要であり、合宿誘致に関してはチームや監督との個別のリレーションが重要である。したがって、今後の誘致活動においては、九州・沖縄エリアの競技団体との関係強化、並びに、競技団体を通じた全国の強豪チームとのリレーションの構築が求められてくる。	次年度以降、各競技のキーパーソンとの連携を深め、令和8～9年度から誘致活動を活発化させる必要がある。 バスケットボールに関しては、沖縄県バスケットボール協会や高校・大学の強豪校とのリレーションの構築を、バレーボールに関しては沖縄バレーボール協会・九州バレー連盟との連携構築を、バドミントンに関しては琉球ブルファイツや日本体育大学との関係を深め共同合宿の可能性を広げていくことが有効である。
7	【差別化】 優先して誘致することが見込まれるバスケットボールに関しては、多国籍ジュニアチームとのマッチメイクができれば、他県の施設では実現が困難な特別なプログラムとなり得る。したがって、同チームとのリレーションを構築し、実現可能性を高めていくことが求められる。	次年度以降、多国籍ジュニアチームおよびエリートバスケットボールアカデミーとの連携を構築し、U18・U15世代のマッチメイクをうるま市で開催する可能性を検討する。ただし、同アカデミーでは既にELITUS CUP OKINAWA WINTERを開催していることから、新しく大会をつくるのではなく、同CUPを発展的にうるま市に移転していくことが望ましいと考えられる。
8	【体制】 受入前から受入期間中における窓口が一本化されていないと満足度の低下につながり、また、受入後に指摘された点に関する改善状況が悪いとチーム定着化に影響するため、委託業者を含めた一気通貫した組織を構築し、誘致活動や改善活動を加速化していく必要がある。	うるま市スポーツコンベンション誘致推進協議会（仮称）を中心とした座組を強化するとともに、将来的にはうるま市のスポーツコミッションを創設することで、利用者（合宿・大会の実施者）から見える窓口を一本化し、満足度・定着率の向上を目指していくことが重要である。

#	認識された課題	今後の対応方針
ソフト面		
9	【実績と経験】 大会の開催に際しては、必要設備の調達、施設間の動線確保、当日の案内等のスムーズな運営が求められるため、実績を積み上げ、ボランティアを含めた市全体の経験値の蓄積が必要となる。 また、合宿の開催に関しても、競技固有の事情を知っていることが満足度にも影響するため、定着化に向けては、PDCAを回せる仕組みづくりが求められてくる。	今後、新しく誘致していくことが見込まれるバスケットボール、バレーボール、ハンドボールに関しては、実際の大会や合宿の視察を複数回実施し、求められる仔細な要求への対応方針の立案が必要である。既に誘致実績のあるバドミントン、トランポリンに関しては、これまでの運営上のポイントを纏め、関係者と共有していくことが必要である。
10	【交流プログラム】 市民との交流プログラムに関して、競技団体やチームに特別な意向はないが、基本的には市が望むことに協力する姿勢であるため、市もしくは市民の希望を明確にしておく必要がある	うるま市の中で競技者数が多い、バスケットボール、バレーボール、バドミントンに関しては市民の声をアンケート調査等により実施し、交流プログラムに関する要望の聞き取りを実施すること。また、要望に関する事前の擦り合わせを競技団体やチームと実施しておくことが重要である。

3. 誘致に向けたロードマップ

＜基本方針（案）＞

- バスケットボールとバレーボールは、常に多種多様な大会が全国各地で開催されており、これらの大会を誘致できる可能性があることに鑑みると、他の競技に比べて成長余力があると考えられる。したがって、両競技の情報をプロモーションを通じて広く発信し、また、補助金を最大限に活用しながら誘致活動を進めていく。
- バドミントン、トランポリンは、既にリレーションもあり、これまで複数回の受入実績がある。今後は、今ある合宿の形を広げていくこと（規模を大きくし、収益性を高めていくこと）に注力していく。
- ハンドボールは、松やにリスクの問題があること、コート面数（2面必要）の課題により大会誘致が難しい可能性があることなどから、積極的な誘致活動は慎重に検討していくこととし、実業団や学生の手堅いニーズを確保できるかの取り組みは続けていく。

以上の方針を踏まえた上で誘致活動を強化していくが、今後の社会情勢等を見極めながら、柔軟にターゲットや基本方針の見直しを進めていくことも重要である。

なお、上記の基本方針に従い、受入シナリオの設定において見込まれた各合宿・大会を誘致していく上では、下表の活動を強化していくことが推奨される。

	令和5～7年度 基本設計・実施設計	令和8～9年度 施工中	令和10年度～ 竣工後
共通	➢ うるま市スポーツ合宿ガイド「めんそーれうるま」を含む、プロモーション全体方針の立案（新設アリーナや補助金等の情報充実） ➢ 誘致対象とした屋内競技にかかる市民のニーズ把握（交流プログラム含む）	➢ 市民のニーズに基づいた誘致競技にかかる交流プログラムの検討	➢ 合宿・大会等を実施した団体への満足度調査の実施
バスケットボール	➢ キーパーソン（沖縄県の競技団体および全国の強豪校の監督等）とのリレーション構築 ➢ 合宿・大会の視察（ニーズ把握、運営ノウハウの蓄積）	➢ キーパーソンを通じた誘致活動の実施 ➢ 競技に特化したプロモーションの実施（バスケ・バレーにかかる情報発信）	➢ こけら落としとして有名チームを招待することによる認知向上 ➢ 補助金を活用した誘致強化による実績の積み上げ
バレーボール	➢ （バスケ）多国籍ジュニアチームとの関係強化		
バドミントン	➢ 既存リレーション先（琉球ブルファイツ、コンサドーレ札幌、日本体操協会、ケンケン体操教室等）との関係強化と、石川体育館および具志川ドームによる受入定着化 ➢ 合宿への参加チーム数増加に向けたコーディネート業務の強化		➢ アリーナ竣工をフックにした複数チームの合宿招待
トランポリン			
ハンドボール	➢ 松やにリスクの検証（現地調査） ➢ コート面数の検証（基本設計） ➢ キーパーソンとのリレーション構築	➢ 石川体育館等を活用した実業団の誘致を実施（トライアル）	